

国語

I

出典

阿部潔「巨大IT産業——テクノロジーに潜むジェンダー・バイアス」へ3 IT産業によるジェンダー差別の再生産・4 デジタル・テクノロジーの可視化に向けて（林香里・田中東子編『ジェンダーで学ぶメディア論』世界思想社）

解答

- 問1 1―⑤ 2―② 3―③ 4―⑥ 5―③  
問2 ①

- 問3 A―③ B―⑤ C―④ D―②  
問4 ②  
問5 ④  
問6 ア―② イ―① ウ―③ エ―①  
問7 (1)―③ (2)―④  
問8 ②  
問9 ⑤  
問10 ③

問2 傍線部の後の「なぜなら」に続く部分に着目する。「より多くのユーザーの注目と関心を引きつけ、より多額の利益を生み出すものであるかぎり、巨大IT産業は……現実社会での偏見や差別の是正に本気で取り組むことなどないからだ」とある。また、同段落末に「何であれ利益を生み出すものならば、それを自ら否定・拒否することなど断じてないからだ」ともある。これらに合致するのは①である。

問4 「IT分野」が忠実なのはどのような「精神」に対してなのか。第二段落に「ソーシャルメディアの道徳的モットーは、実のところ……コミュニケーション資本主義のもくろみと分かちがたく結びついている」とある。

問5 後に挙げられる例から考える。「経済的な苦境に追いやられていくユーザー・国民からより多くのアクセス数と支持を獲得するために、……ネットでの差別・偏見とビジネスとの結びつきが注目された。それと同様に、……ジェンダー差別へのニーズが厳然と存在し、プラットフォームを通してそれに発言の機会を与えることがビジネスとなる」とある。経済的に苦しいユーザーが、自分の苦境の「原因」を断定する差別発言に引きつけられる→アクセス数が増える→儲かる、という図式で、差別発言を煽ることがビジネスになるのである。④が正解。「少数派の人々を攻撃する」とは「差別・偏見」のことである。①・⑤は「偏見や差別に根ざした」の説明になっていない。②・③はアクセス数獲得について言及がない。

問7 (1)動詞は「置く」「めぐる」「高まる」の三語。

問8 「これまでの議論で見てきたように」とある。「これまでの議論」を押さえるとすれば、どのような言葉を入れるのが適切か。第一段落で述べられているような、「意見や立場の偏り」「女性蔑視や差別を助長し再生産する」に当たる選択肢は、②の「偏りと歪み」である。

問9 傍線部の後の「企業は自らに都合よく顧客情報を商品としてやり取りしている」「何を目的にユーザーの個人情報

を処理しているのかは、依然としてブラックボックス化されたまま」から考える。⑤の「秘密裏」は「ブラックボックス化」に、「個人情報収集」は「自らに都合よく顧客情報を商品として……」に対応している。「活用の全貌」は傍線部の「蓄積・分析・応用のプロセス」を説明したものである。

**問10** 傍線部を含む段落の内容から考える。「問題意識のもとで批判的な学術研究と社会運動が連携しつつテクノロジーに潜む差別を問いただし続けることが必要」とある。これに合致するのは③である。

**問11** ①第一段落に「意見や立場の偏りの不可視化」とあるので、「可視化されやすく」は不適。

②前半部で述べているように「批判的な態度」はとっていない。

③第六段落に「IT産業……無責任ともいえる姿勢は批判を受け、各国の法制度も変わりつつある」とありつつある」のであって、「各国の法制度が整備されることになった」わけではない。

④後ろから二段落目の「フェミニズム的な問題意識のもとでテクノロジーとジェンダーとの関連を批判的に問いただしてきた研究伝統は……多くのヒントを与えてくれる」に合致している。

⑤後ろから二段落目にあるように、「喫緊の課題となっている」のは、「情報環境の『汚染』」ではなく、「自然環境問題への危機意識」である。

## II

### 出典

岡田美智男『ロボット——共生に向けたインタラクティブ』（第1章 まわりを味方にしてしまうロボットたち 1 〈お掃除ロボット〉のふるまいを観察してみる）（東京大学出版会）

### 解答

**問1** 1—③ 2—⑥ 3—② 4—② 5—①

**問2** A—① B—⑤ C—③ D—②

**問3** ②

**問4** (1)—⑪ (2)—④

- 問5 ④  
 問6 ア―④ イ―② ウ―④ エ―①  
 問7 ①  
 問8 ⑤  
 問9 ⑤

解説

問3 空欄直前の「どこか閉じた〈機械〉をイメージしてしまう」や、その前の「ただまっすぐに進み続ける」「わき目もふらずに、プログラムに従ってひたすら動くだけ」から、②の「ひたむきだけれど、融通が利かない」が入る。

問4 (1)「部屋／の／壁／に／ぶつかる／と、／それ／以上／は／進め／ない」で⑩。

(2)助詞は自立語の下に付くので「の」「に」「と」「は」の四つである。「ない」は活用するので助動詞。  
 問5 傍線部直前の内容から考える。「『よもや機械に心が宿ることはあるまい』と考えている」が、それでも「『その背後になんらかの意図があり、それに沿って合目的にふるまっているのではないか』と捉える」ことである。④の内容が合致している。

問7 「外に開いたロボットの姿勢に対して」、わたしたちが「妨げになりそうなものをどかしてあげ」たり、「テーブルや椅子を整然と並べ直」したり、「スリッパをせっせと下駄箱のなかに戻」したりしてしまうことである。

問8 前段落に「わたしたちもロボットの不完全なところを補いながら、……自らの行為の可能性を探っているところがある」「相手の〈拙さ〉を補おうとするなかで、自分の役割や立ち位置を見つけることができるのはうれしい」とある。この内容に合致しているのは⑤である。①は「自分の〈拙さ〉と向き合い」、②は「人と人の間」、③は「ロボットによって定められた役割」がそれぞれ不適。④は「人はロボットの〈強み〉を見いだし、その〈強み〉を生かして自分の居場所を作る」が不適。「生かそうとする」のは、相手ではなく「自分の〈強み〉」である。

## 問9

- ① 第二段落に「洗濯機の『お任せモード』と同じで、……少し距離を置きたくなる」とある。
- ② 第七段落に「とても迷惑そうな仕草として映るのだ」とある。ロボットが「訴えかける」のではないので不適。
- ③ ケネス・ケイの説は第十段落にあるが、ロボットではなく人の子どもに関する説である。
- ④ 後ろから四段落目に「わたしたちとロボットは、ここでお掃除することを競い合っているのではない」とある。
- ⑤ 最終段落の「人とロボットとの〈共生〉とは、……自らの〈不完全なところ〉を自覚しつつ、それを適度にさらしてみる」に合致している。